

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0767
施設名	みなみ野敬愛保育園
施設所在地	八王子市七国3-53-1
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然体験を通して、音や光や固さなどを感じ味わう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

乳幼児期における自然との関わりは、子どもの発達にとって重要な感性を育む機会となる。自然の中での活動は、運動能力や健康の促進、集中力の向上に寄与するほか、協力やコミュニケーション能力、好奇心、問題解決能力、科学的思考力の育成にもつながる。さらに、環境保護への意識を高め、持続可能な社会への理解を深めるきっかけとなることから、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和6年9月から1月にかけて、各クラスで以下の活動を実施した。

9月：0歳児クラス「自然散策」、1歳児クラス「水遊び・葉っぱ遊び」、2歳児クラス「虫探し・砂遊び」

10月：3歳児クラス「ガーデニング・光遊び」、4歳児クラス「自然観察・自然アート」

11月：3歳児クラス「アウトドアクッキング」5歳児クラス「エコプロジェクト」

12月：5歳児クラス「七国古道沼地ハイキング」全クラス 第2園庭での自然遊び、アートデイ

1月：各クラスでの振り返り、活動報告の展示

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

活動に際しては、自然物（葉っぱ、木の実、石、花、砂、水、虫かご、虫メガネなど）のほか、バケツやじょうろ、ペットボトル、ビニールシート、ガーデニング用具などを準備した。園庭の一角には自然コーナーを設置し、公園や裏山での活動においては事前に下見を行い、安全確保に努めた。また、活動前には子どもたちへの安全指導を徹底し、活動中も保育者が十分な見守りを行った。

活動の振り返りのため、電子黒板を活用した。また、保護者へお伝えするために各保育室前にピクチャーレールを設置工事し整備することで保護者と活動状況やお子さまの興味関心を共有することができた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

0歳児クラス：保育者と共にベビーカーで園周辺を散策し、木々の葉や鳥の声に耳を傾け、自然の匂いや風の感触を味わった。また、葉や草、砂などの自然物に触れ、触覚の発達を促した。

1歳児クラス：園庭やビオトープで水遊びを行い、水の冷たさや流れを感じた。落ち葉を使った遊びでは、カサカサという音や手触りを楽しんだ。

2歳児クラス：公園や裏山で虫探しを行い、見つけた虫を虫かごに入れて観察した。砂場では自由に砂を掘ったり、形を作ったりしながら、創造力を広げた。

3歳児クラス：小さな鉢や花壇を使ったガーデニング活動で、土を触りながら苗を植え、水やりや成長の変化を楽しんだ。アウトドアクッキングでは、野外で簡単な調理を体験し、自然の中での食事の楽しさを味わった。

4歳児クラス：森や公園で自然観察を行い、鳥の鳴き声、風の音、雨音などを聞き分けた。自然アートでは、葉や石、色水入りペットボトルなどを用いて作品作りを楽しんだ。

5歳児クラス：リサイクル素材を用いた工作やごみ拾い活動など、エコプロジェクトを通して環境保護について学んだ。安全なルートでの七国古道・沼地へのハイキングも行い、自然の中での発見を楽しみながら、体力の向上も図った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

活動中、子どもたちは「この虫はなに？」「葉っぱがカサカサ音がする！」と興味津々な様子で自然物に触れ、保育者や友達と一緒に観察を楽しんでいた。

0歳児クラスでは、葉を握って感触を確かめたり、風の音に耳を澄ませる姿が見られた。

1歳児クラスでは、水に手を入れて「つめたーい！」と笑い声を上げ、友達同士でバケツに水を入れ合う姿もあった。

2歳児クラスでは、虫を見つけて「見て見て！」と友達に声をかける様子や、「どこにいるのかな？」と保育者と一緒に探す姿があった。

3歳児クラスでは、自然アートの制作中に「これを使ったらきれいになるかな？」と素材を選びながら相談する姿があり、

4歳児クラスでは、木々の葉音を聞いて「風の声みたいだね」とつぶやく場面もあった。

5歳児クラスのハイキングでは、「疲れたけど楽しかった！」と達成感を感じる表情が見られた。

全体を通して、子どもたちは自然の中での活動を楽しみ、保育者の声掛けや友達との関わりを通して学びを深めていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通じ、自然に触れることで子どもたちの表情が生き生きとし、五感を使った体験を通して豊かな感性が育まれていることを改めて感じた。特に、子どもたちは「感じたこと」を言葉で表現することが難しい年齢であっても、目を輝かせて発見を共有しようとする姿や、友達同士で気づきを伝え合う姿が見られた。保育者として、子どもたち一人ひとりの気づきを丁寧に拾い上げ、次の活動につなげることの大切さを再認識した。また、活動の中で安全面への配慮が必要な場面（虫刺されや転倒のリスク）があったため、今後も安全対策を徹底しつつ、子どもたちの「やってみたい」を尊重した活動を継続していきたいと感じた。